

2025 Teachers'



総論

「子どもまんなか授業」
を支える児童生徒の
言語能力

国語(中3)

単元名「作品を論じる」

社会(小5)

単元名「未来とつながる情報」

算数(小5)

単元名「図形の面積」

生活(小1)

単元名「きせつと なかよし あき」

令和8年3月
下越教育事務所

◆◆言語能力を育成し、深い学びを実現する◆◆

なぜ、対話が深まらないのか

学校訪問等で授業を参観すると、どの授業にも、ねらいの達成に向けて対話の場面が位置付けられています。しかし、授業後の協議会では、多くの授業者が、「(本時で設定した)対話場面では、思ったほど学びが深まらなかった。」と話しています。なぜ、対話で学びが深まらないのでしょうか。

当事務所では、その要因が、以下の2点であると分析しています。

- 自分の思考を適切に言語化できず、考えが相手に伝わらないこと
- 相手の言葉から思考を読み取ることができないこと

授業における対話は、「思考のやり取り」に他なりません。そして、その媒体となるのが「言葉」です。対話で学びが深まらないのは、言葉で考え、言葉で他者とかがわる力、つまり「言語能力」が不足しているからであると考えました。児童生徒の言語能力を鍛えることによって、言葉による思考のやり取りがスムーズになり、対話をとおして学びが深まっていくことを実感できると考えます。

言語能力とは何か

言語能力は、すべての学習の基盤となる資質・能力であり、多様な意味を包含する概念です。学習指導要領では、三つの柱(知識・技能/思考力・判断力・表現力等/学びに向かう力・人間性等)で整理されています。(学習指導要領解説総則編「言語能力を構成する資質・能力」小 pp. 49-50、中 pp. 50-51 参照)

当事務所では、言語能力の中でも、特に「3つの思考を言語化する力(以下、3つの言語能力)」が対話を深い学びへと導く重要な要素と捉えています。本号では、この3つの言語能力について、発達段階に応じて、各教科で育成を図っていくことを提案します。

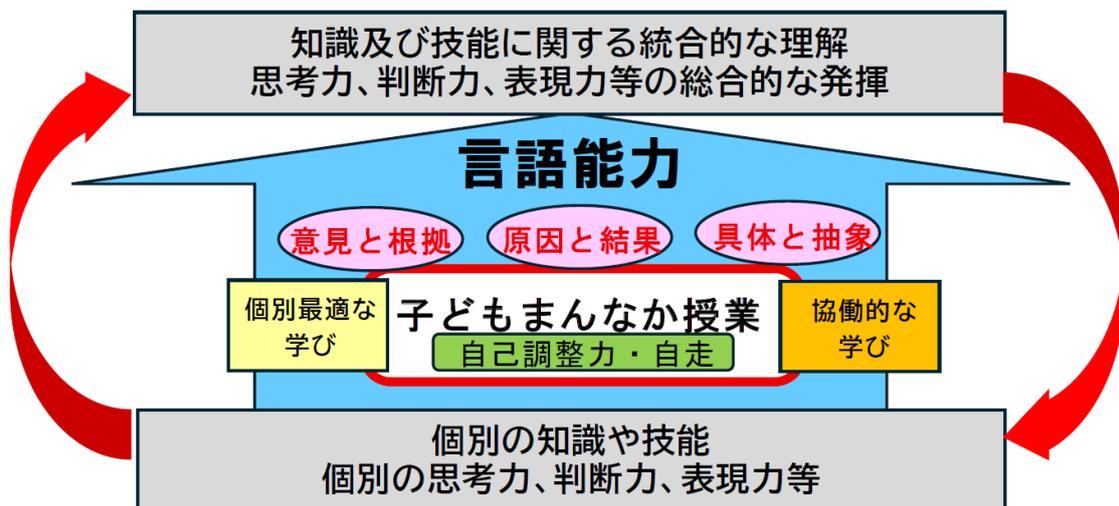
意見と根拠…自分の考えに理由を入れ、説得力をもたせて表現する力
【例】「…だと思う。なぜなら～」等

原因と結果…物事の因果関係を筋道立てて、論理的に表現する力
【例】「Aになる。それはBだからだ」等

具体と抽象…複数の具体を一般化する力、抽象的な概念を具体で説明する力
【例】「～なった。ということは……ということが言える」「例えば」等

「子どもまんなか授業」を支える3つの言語能力

当事務所が提唱する「子どもまんなか授業(Teachers' 2024-2025 参照)」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還をとおして、身に付けさせたい資質・能力の育成を図ります。そして、その学びを支えるのも、3つの言語能力であると考えています。この3つの言語能力によって、自らの思考を整理し、他者に伝わる形に言語化することによって、互いに影響し合い、より高次の資質・能力へと学びが深まっていくことが期待できます。本号では、3つの言語能力を育成するためのポイントを、4つの実践例を用いて提案します。

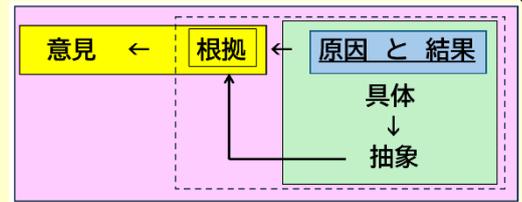


◎ 3つの言語能力を育成するためのポイント◎

① 言語能力を発揮した姿を明確にする

【明確にする】

3つの言語能力は、各教科で共通して活用できる資質・能力です。「意見と根拠」「原因と結果」「具体と抽象」の関係性は右図のように表すことができます。この3つの言語能力を発達段階に応じて、使いこなせるようにすることで、自分の思考を分かりやすく整理したり、友達とのかかわりを深めたりできるようになることが期待できます。



そのため、教師は、単元を構想する際、児童生徒が、この3つの言語能力をどのように働かせて学びを進めるのかを明確にイメージすることが大切です。対話場面で、児童生徒が「原因と結果」、「具体と抽象」を用いながら、どのように「意見と根拠」を組み立てるかを、児童生徒の具体的な姿で構想することが大切です。

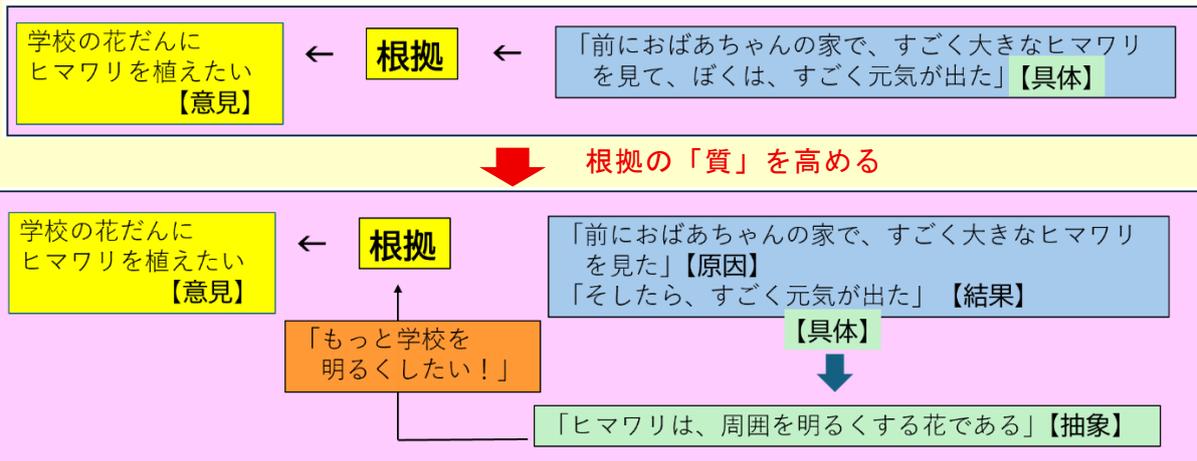
② 言語能力を引き出し、ねらいに迫る

【引き出す】

教師は、対話場面において、児童生徒の思考を3つの言語能力によって引き出し、意見の根拠の質を高めていきます。そして、それを丁寧に見取り、価値付け、全体で共有していきます。その後、意見の根拠の妥当性について、教師は問い返しを行い、深い学びへと導いていきます。

【例】小学校低学年 生活科

先生：「みんなで学校の花壇に植える花を決めましょう。どんな花がいいと思う？」



児童：「ぼくはヒマワリがいい！ヒマワリは大きくて目立つから、学校が明るくなると思う。前におばあちゃんの家に行ったとき、すごく大きなヒマワリがあって、とても元気が出たんだ。だから、ヒマワリを植えたら、みんなが元気になると思う。そして、学校が明るくなると思うよ。」

先生：「みんなもヒマワリを植えると、学校が明るくなると思う？」 【問い返し例①】

「植えた花と学校の明るさ、元気って関係あるの？」 【問い返し例②】

「どうして学校に花を植えるのかな？サツマイモじゃダメなのかな？」 【問い返し例③】

③ 言語能力を活用した学びを整理し、次の学びにつなげる

【整理する】

学びを振り返る際にも、児童生徒が3つの言語能力を意識して学習してきた過程を整理し、言語化することが大切です。そこでは、児童生徒が意見を支える根拠の妥当性を再検討し、自らの思考過程を自覚して、意見を修正したり、新たな問いを表出したりします。

【例】「私もヒマワリを見ると元気になった。どうして、ヒマワリを見ると、元気になるのかな？」

「ヒマワリの黄色と大きさが、みんなの元気に関係しているんだと思うよ。他の花はどうかかな？」

「学校だけじゃなくて、いろいろなところに花はあるよ。生活に花って必要なのかな？」

教師は、児童生徒の振り返りを踏まえて、3つの言語能力を他の学習場面でも活用できるよう、その後の授業設計を行います。このように繰り返し習熟を図ることによって、児童生徒は3つの言語能力を必要な学習場面で自在に駆使できるようになります。

単元のねらい

叙述に着目して、作品に対する自らの考えをもち、それを他者の考え等と比べて読み深めることをとおして、作品を適切に批評することができる。

① 言語能力を発揮した姿を明確にする

【明確にする】

初めて「批評」を学ぶ本単元では、作品を多面的に読み取り、自分の考えを論理的に組み立てて表現する言語能力が求められます。内容・構造・表現を丁寧に捉え、意見の根拠となる叙述を見付ける読解力に加えて、表現の効果や筆者の意図を考える力が必要です。また、意見と根拠の関係を整理し、批評のための語彙を適切に使いながら筋道立てて表現する力を身に付けることで、説得力のある批評文を構成できるようになります。

<単元構想>

単元ガイダンス 「教材」「学習目標」「学習時間」の提示

単元ゴールの明示⇒作品を批評して、友達に伝えよう！

「批評」について押さえる

これまで、どんな読みの力や学習の仕方を学んできたかな？

【読みの視点（例）】

象徴・アイテム・伏線・対比・クライマックス
人物像・人物関係・行動描写・情景描写・構成
展開・反復・時代背景 等

スタディ・ログの見直し

自分はどのように作品を読んできたろう？

学習課題・評価基準の決定・共有

この作品の魅力をたくさん伝えたいな。

「形」はどんな作品かな？

「批評」って何？

単元の学習をどう進めようかな？

作品の読解

◆単元内自由進度学習◆

「誰と」「どこで」「何を使って」「どのように学ぶのか」
生徒による自己選択・自己決定

読みの視点を使って、作品を読み深めよう。

課題設定・教科書への線引き・書き込み

【教師の役割】

- 可視化で促す
- 言語化を促す
- つなぐ
- 指示する
- 称賛する
- 問い返す 等



個別

生徒と教材
生徒と生徒

協働



主人公の新兵衛の行動に着目して、人物像を明らかにしたい。

この作品の主題は何だろう？

友達にも聞いてみたい。ねえ、どう考えた？

～だと思う。本文には…
【意見と根拠】

～したことが…につながったと思う。
【原因と結果】

本当？

どうして？

作品の批評（パフォーマンス課題）

相互評価

それって、つまり…ということだね。**【具体と抽象】**

友達のスタディ・ログを参考にして、考えてみよう。

ルーブリックをもとに、みんなが書いた批評文を評価しよう。

評価基準の確認

A評価にするには、批評文をどう直したらいいかな？

どうしたらもっと読み手に伝わりやすくなるだろう？

友達から指摘されたところを修正してみよう。

振り返り

スタディ・ログの記録

他者参照⇒共有

この単元で学んだ読み方、学び方をスタディ・ログに記録しよう。

「対比」に着目して読むと、作品の魅力がより分かり、確かな批評につながった。次の作品でも使ってみよう。

この単元での学びを、次の作品での批評につなげよう。

〇〇さんの批評は「意見と根拠」が明確で、なるほどと思った。



対話することで読みが深まった。自分たちで作品が読める自信ができたよ。次の「百科事典少女」や「故郷」の学習ではもっとうまく学べそうだ！

② 言語能力を引き出し、ねらいに迫る

【引き出す】

本単元での話し合い場面では、読みの視点をもとに、叙述に着目し、根拠（原因と結果、具体と抽象）を明確にして、自分の意見（読み）を他者と伝え合う活動を重視します。作品中のどの言葉に着目して、どのように意味（理由）付けをしたのかを明らかにして交流させることで、作品を主観的に読み味わうだけでなく、客観的・分析的に読み深める力を引き出します。そのために、「意見」と「根拠」（原因と結果、具体と抽象）の関係を意識させるとともに、教師が読みの視点を整理したり、スタディ・ログを振り返らせたり等しながら、生徒がそれらの読みの視点を活用できるよう工夫することが重要です。

本時のねらい 他者との対話をとおして、作品についての自分の考えを深めることができる。

【作品のあらすじ】

戦国の世に名をはせた勇ましい武将・中村新兵衛は、「槍中村」と恐れられるほどの腕前だった。彼が身に着ける、真っ赤で目立つ羽織と、派手な飾りの付いた兜は、敵を震え上がらせる“形（かたち）”の象徴でもあった。ある日、主君のそばに仕える若い侍が初めての戦に出ることになり、「敵を驚かせて手柄を立てたい」と、新兵衛のその派手な装束を貸してほしいと頼む。新兵衛は「自分は見た目に頼らずとも戦える」と思い、快く貸し、自分は黒くて地味なよろいで出陣する。翌日の合戦では、真っ赤な装束を着た若侍には敵が恐れて近付かず、若侍は簡単に手柄を立てる。一方、地味なよろいの新兵衛には、敵の雑兵たちが対等の相手だと思って次々と襲いかかり、苦しい戦いを強いられる。この戦いをおして新兵衛は、外見としての「形」が、人からどう見られるかや、力の発揮に大きく影響することを深く思い知らされる。

自由進度学習の場面

個別

「読みの視点」を基にした読解

主人公の行動や発言に気を付けて読み、「人物の価値観」について考えたい。

作者が読者に何を考えさせようとしているのか、作品の「主題」を探りたい。

教師の働き掛け

問い返し（関係性・汎用性・本質）

つなぐ
生徒と教材
どの叙述からそう考えたの？
生徒と生徒
〇〇さんもそのことを考えていたよ。

協働

【意見】『形』は、「人は形（外見）に囚われる」という人間の本質を描いた小説だと思う。【根拠】敵兵が「猩々緋の羽織」を見て恐れ、（黒革絨の）新兵衛には動じなかったという描写がある。【原因と結果】これは、敵が、形（外見）に虚構をつくり出し、囚われたことを表していると思う。【抽象】このように、人は外見から相手の力や性質を推測し、その印象に行動を左右される傾向がある。外見と内実が無関係でも、人はそこに意味を読み込み、恐れや期待といった感情を生み出してしまふ。

その「外見に意味を読み込む」という傾向は、この作品以外の現代社会の中でも見られるかな。【問い返し（汎用性を問う）】

【意見】外見に意味を読み込むのは戦の場面だけではないと思う。【根拠】例えば、ブランド物の服を着ている人を「お金持ちだ」と決めつけたり、逆に地味な格好の人を「自信がなさそう」と判断したりすることがある。【原因と結果】実際には、その人の性格や能力とは関係ないのに、見た目から勝手にイメージを作ってしまう。【抽象】このことから、外見に左右されるのは、時代や状況を超えて見られる普遍的な人間の心理と言える。

【意見】外見に意味を見出してしまうのは、人が不確かな状況で判断を急ごうとする性質なのだと思う。【根拠】敵兵が猩々緋の羽織を手がかりに若侍の力を誤って判断したのも、その性質が働いている結果なのだ。【抽象】つまり、この作品『形』は外見そのものよりも、人が不確かさを避けようとする本質的な心理を描いているのではないかな。

③ 言語能力を活用した学びを整理し、次の学びにつなげる

【整理する】

学習内容や学習方法についての気づきを、随時スタディ・ログに記録・蓄積させていきます。これにより、生徒は自らの学びを自覚し、次時や次単元でのよりよい課題解決へとつなげることができます。

生徒同士で振り返りを共有し、互いの記録を参照できるようにすることで、新たな視点に気付いたり、課題解決の手掛かりを得たりすることが可能になります。また、教師もスタディ・ログを共有することで、生徒一人一人の学習状況を把握し、全体への支援や個別の声掛けに生かすことができます。このような学びを支えるためにも、授業ではICT端末を積極的に活用していくことが重要です。

友達と対話することで、自分の考えに論理の飛躍があることに気付いた。修正して根拠をより明確にすることができたよ。



〇〇さんも、その表現について考えていたよ。〇〇さんのスタディ・ログを確認してごらん。

なるほど、〇〇さんの作品の捉え方がとても参考になるな。



小学校 第5学年 社会科「未来とつながる情報」

単元のねらい

情報がニュースとして伝えられるまでの過程を調べ、取材や編集、放送の一連の活動を体験することをおして、放送の役割や様々な工夫、情報を正確に伝えることの大切さや責任について理解する。また、情報の送り手と受け手の双方の立場からニュースを捉え直すことができるようにする。

① 言語能力を発揮した姿を明確にする

【明確にする】

本単元では、放送の役割と責任について、ニュース番組の制作過程を調べる活動から得た気づきを、原因と結果で捉え直し、情報の送り手の意図と受け手である自分自身の生活とを相互に関連付けて表現する言語能力が必要です。「学校や地域のことを伝えるニュース番組をつくろう！」という単元を貫く課題を設定し、ニュース番組制作現場の見学や調査活動などの、体験を伴う学習を取り入れることで、情報の送り手と受け手の双方の立場に立って自分事として捉え、考察できるようにします。

<単元構想>

学校や地域のことを伝えるニュース番組をつくろう！

単元ガイダンス

テレビで地域の情報を伝えるために、何をしないといけないかな？



「ニュース番組を作るための工夫を調べる」という目的から外れないように意見をつなぎ、学習計画を立てさせていく。

地域の人たちにテレビで見てもらうのか。やってみたいな！

ニュースができるまでを調べなきゃ。

どんな話題をニュースにするのかな？

取材や調査の仕方はどうしているの？



取材・情報収集→整理→考察→発信→振り返り

ニュースができるまでを調べよう！



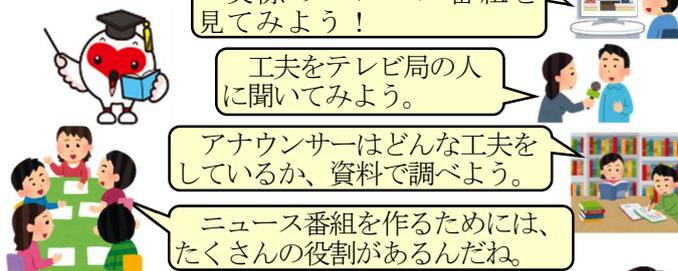
ポイントを絞った話し合いになるよう、視点を提示する。

実際のニュース番組を見てみよう！

工夫をテレビ局の人に聞いてみよう。

アナウンサーはどんな工夫をしているか、資料で調べよう。

ニュース番組を作るためには、たくさんの役割があるんだね。



取材・情報収集→整理→考察

ニュース番組をつくろう！

ニュース番組をつくるには、工夫や気を付けること、大切にしなければいけないことがあるんだね。



情報を集めるとき

- 取材内容・対象を決める
- 取材原稿の作成
- インタビューの内容確認
- 撮影する動画の内容確認

情報を選んで編集するとき

- 映像の編集
- ニュース原稿の作成
- 放送時間に合わせた内容確認

情報を伝えるとき

- ニュース原稿の確認・修正
- 映像に合わせた言い方・内容の見直し
- ニュース映像の作成



発信→振り返り

完成したニュース映像を放送してもらおう！



自分の気に入った情報だけでなく、反対の立場も知るようになります。



ニュースの伝え方に注目して見るようになりました。映像だけで判断しません。

実際にニュースを作ってみて、発信することは責任のある大変な仕事だと思いました。

② 言語能力を引き出し、ねらいに迫る

【引き出す】

本単元では、ニュース番組を制作する現場の見学や聞き取り等から得た気づきを、原因と結果の関係から整理させます。その後、互いが着目した点や気づきを交流させ、情報の受け手と送り手の立場から事実を多角的に捉え直すことで、人々の生活を支える情報の役割について、概念的な理解を引き出します。

本時のねらい

ニュース番組を制作する上での工夫について、情報を「集めるとき」「選んで編集するとき」「伝えるとき」で整理し、そこから分かることを交流する活動をとおして、情報が自分たちの生活や行動、判断に影響を与えていることを考えることができる。



ニュース番組の工夫をもとにして、情報を伝えるときに大切なことは何かを考えましょう。

テレビ局の工夫のまとめ

「集めるとき」の工夫

見ている人が一番知りたいことや、生活に関係が深い情報を集めるようにしています。

なぜ、生活に関係している情報なんだろう？

自分の生活とつながっている情報は、知らないこと、困っていること、判断材料があること、判断材料をたくさん集めることが、生活をよくすることに繋がります。

【原因と結果】

「選んで編集するとき」の工夫

間違った情報を伝えないように、たくさんの人で確認します。

大勢の人でチェックするのはどうしてなのかな？

ニュースはみんなに正しく伝えることが大切だから、多くの人で確認すること、思い込みはないか、別の見方はないか確認しているんだ。

【原因と結果】

「伝えるとき」の工夫

大まかに伝えてから、映像と一緒に詳しく話しているぞ。



ニュースは限られた時間で分かりやすく伝える必要があるよね。だから要点を説明しながら、映像も加えて、分かりやすい内容にしているんだ。

【原因と結果】

やっぱり、正しい情報が伝えられることが大切だと思うよ。テレビ局の人たちも、たくさん情報の中からニュースの内容を大勢で決めていたのはそのためだし、正しい情報であるからこそ、受け手から信頼されるニュースになるんだよ。

【意見と根拠】

「正しい」ことが伝わるためには、たくさん情報があることが一番大切だよ。反対意見も知りたいことの1つだと思う。様々な意見があることを伝えないと正しいとはいえないね。

【意見と根拠】

分かりやすい情報であることが大切だと思うよ。ニュース番組は映像があるから、たくさんの情報が伝えられるし、グラフや図で示せば「こんなに違いがある」というのが一目見ただけで簡単に分かるから、説得力があるよね。

【意見と根拠】

でも、映像があるからこそ、私たちは騙されやすくなるのではないかな？映像で、偏った内容や伝え方をされたら信じてしまうよ。

【意見と根拠】

そもそも、何が正しいのかをテレビ局が決めることができるのかな？

何が正しいかは、見ている人が判断することだと思うよ。ニュースとSNSは情報を伝える点では同じだけど、SNSは個人が一方的に伝えるところが大きな違いだね。ニュースは「たくさんの人でチェックする」ことで、受け手にとって偏った情報にならない仕組みがある。受け手が正しく判断できるように、情報を分かりやすく、公平に伝える責任がニュースにはあるんだよ。

【意見と根拠】【具体と抽象】

③ 言語能力を活用した学びを整理し、次の学びにつなげる

【整理する】

「振り返り」では、自身の学びの現在地を確かめるとともに、明らかになった課題や改善点を踏まえ、次時の学習につなげていくことで学びを更新します。教師は、児童の振り返りについて、称賛や問い直しを重ねることで、理解を確かなものにしていきます。

本時の授業で感じたことや考えたことを振り返りましょう。



初めは正しい情報を伝えるだけでよいと思っていたけれど、公平な立場で発信しなければならないことが分かった。難しいものだと感じたし、報道に携わる人たちは、責任のある大切な仕事をしていると思った。



ニュース番組を、伝え方に注目して見るようになった。情報の整理の仕方や見せ方によって、ニュースの印象が変わることに驚いた。これからの学習でも資料のまとめ方や示し方で生かしていきたい。



単元のねらい

倍積・等積変形等の操作をとおして、面積の求め方や求積公式の意味を理解し、公式を活用して面積を求めることができる。

① 言語能力を発揮した姿を明確にする

【明確にする】

本単元では、既習の求積方法をもとにして、倍積変形、等積変形等の操作活動をとおして面積の求め方を考えるとともに、求積公式を導くことが求められます。その際、既習事項と関連付けて、筋道立てて説明する言語能力が必要です。学習計画表をもとに、学習の進め方などを児童と共有し、見通しをもち、主体的に学習を進められるように単元を展開します。

<単元構想>

単元ガイダンス



右の図形について、学習したことや、まだ学習していないことはどんなことかな。



まだ面積の求め方を学習していない図形があるから考えたい。



まだ学習していない三角形や四角形の内積の求め方や求めるための公式について考えよう。

これまでに習った図形をもとに、面積の求め方を考えるといいのかな。



長方形や正方形のように、面積を求める公式を話し合ってみよう。



学習計画表をもとに平行四辺形の学習を進めよう。

平行四辺形を切って動かして、長方形にして考えれば面積を求められるかな。



底辺と高さが分かれば、長方形と同じ考え方で面積を求められるね。

自己選択・自己決定する学びの保障



平行四辺形の学習をもとにして、三角形、ひし形、台形の面積の求め方や求めるための公式について考えましょう。



同じ台形を2つ合わせたら平行四辺形になるね。そうすれば、平行四辺形の面積の求め方が使えるよね。



台形を切って2つの三角形に分けても面積は変わらないから、三角形に分けるといいね。

上の辺と下の辺は、もとの台形の上底や下底という言葉を使うといいんだね。



三角形に変形しても、平行四辺形に変形しても、同じ式になるね。だから、台形の公式は、(上底+下底)×高さ÷2だよ。この公式を使えば他の台形の面積も求められるよ。



今日の学習を振り返って、次の時間のめあてを設定しよう。



これまでに習った図形に変形して、上底や下底等のもとの図形の言葉に着目したら公式ができたよ。

面積を変えないように習った図形に変形して、考えることが大事だね。



今日は台形の面積を求める公式をつくることができたよ。明日は、台形の面積の求め方をひし形にも活用できるか試してみよう。



めあてを達成できたかどうかや、単元をおこなった学び方について振り返ろう。

単元の振り返り

これまでに学習した図形に変形すれば、台形やひし形の面積を求めることができたし、公式もつくることができた。



自分の考えを伝えるときは、学習したことをもとに順序を考えて説明することが大切だったよ。次の単元でも生かして学習したいな。

② 言語能力を引き出し、ねらいに迫る

【引き出す】

本単元では、筋道立てて考えたり、算数用語を適切に使用したりしながら既習をもとにした根拠（理由）を大切に課題を解決することができるように言語活動を工夫します。また、面積の総和が変わらないように図形を変形させたり、子ども同士で話し合いながら公式化したりする過程を重視して授業を進めます。そのために、既習の求積方法を用いて個別に考えたり、児童同士で話し合いながら課題解決したりする言語活動を中心に単元をコーディネートします。

本時のねらい

三角形・台形・ひし形について、既習の図形に変形して求積する活動をとおして、面積の求め方を理解するとともに、求積公式をつくることができる。

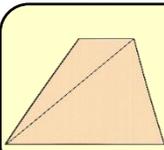
台形の面積の求め方を考えている場面



台形の面積の求め方や求めるための公式について考えよう。

個別

三角形では、面積が変わらないように変形させることで求めることができたから、その考え方を生かして台形の面積を求められるか考えよう。



台形を対角線で切って2つの三角形に分けて足しても面積は変わらないから、分けて考えれば求められるんじゃないかな。
【意見と根拠】

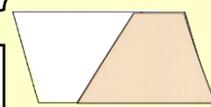
協働

なるほど！面積を変えないように三角形に分ければ、三角形の面積の公式を使って求めることができるね。そうすると、上の辺×高さ÷2と下の辺×高さ÷2を足して、(上の辺+下の辺)×高さ÷2にすればいいね。
【原因と結果】



他の方法についても考えられるといいね。

個別



同じ台形を2つ組み合わせると平行四辺形になるね。そうすると、平行四辺形の面積を求める公式を活用できるんじゃないかな。
【意見と根拠】

同じ台形を組み合わせて平行四辺形にすると面積が2倍になっちゃうけれどいいのかな。

協働

同じ台形を2つ組み合わせた平行四辺形は、求めたい台形の2倍になっているから、÷2をして面積を半分にするだけでいいんだよ。
【原因と結果】

そっかあ。平行四辺形の公式を使って求めるけれど、求めたい台形は平行四辺形の半分だから÷2をすればいいんだね。

そうすると、(上の辺+下の辺)×高さで平行四辺形の面積を求めて、半分(÷2)にすれば台形の面積が求められるね。
【原因と結果】



台形の面積を求める公式はつくれるかな。
【問い返し(汎用性を問う)】

上の辺と下の辺は、もとの台形の上底や下底という言葉を使うといいね。

協働

どちらの考えでも(上の辺+下の辺)が同じだから、同じ式になるね。だから、台形の面積を求める公式は、(上底+下底)×高さ÷2になるよ。
【原因と結果】

どの形に変形しても面積を求める式は同じになるね。これが台形の面積を求める考え方なんだね。この考え方を使えば公式にして、他の形の面積を求めることができるね。
【具体と抽象】

協働

他の図形の公式についても考えてみたいな。

③ 言語能力を活用した学びを整理し、次の学びにつなげる

【整理する】

クラウド上に保存してある学習計画表で、課題の達成状況や解決方法、言語能力の活用状況等を適宜振り返り、学びを自覚するとともに、学んだことを次時でも活用できるように学習を進めます。その際、友達の進捗状況を共有できるようにして、友達の振り返りを自分の学びに活用したり次時の学びを見通したりできるようにします。



今日はどこまで進んだか、次回は何を考えるかを振り返りましょう。

どれも今までに学習した図形に変形させると面積を求めることができるね。



個別

面積を変えないように台形を三角形に分けたら、台形の面積を求めて、公式をつくることができたよ。



個別

明日は今日の台形の面積の求め方を使って、ひし形の面積の求め方について考えよう。



協働

自分の考えを伝えるときは、学習したことをもとに順序よく説明することが大切だね。

単元のねらい

身近な自然について諸感覚を用いて観察したり、自然物を取り入れて遊びに使う物を作ったり遊んだりする活動をとおして、秋の特徴や他の季節との違いに気付き、季節によって生活の様子が変わること理解するとともに、季節のよさを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。

① 言語能力を発揮した姿を明確にする

【明確にする】

本単元では、秋の特徴や他の季節との違いなど、色や大きさ、形など視点を明確にして表現する言語能力が求められます。そこで、自分の気付きを伝えたり他者の気付きを聞いたりする交流活動や対話をとおして、これまで気付かなかった対象の変化、自然の不思議さに気付き、秋の特徴（よさ）を自覚できるようにします。

<単元構想>

振り返り

秋の「お気に入り」「たからもの」見付けたよ！

秋はいろんな色の葉があつてきれい。

いろんな木の実がなる。

自己選択・自己決定する学び

見付けたことや遊んだことをもとに考えよう。秋はどんな季節かな？

秋祭りでは、どんな工夫をする？

【教師の役割】

- ・特徴付ける
- ・価値付ける
- ・称賛する
- ・反例を示す (論理を試す)
- ・意味付ける
- ・質問する
- ・理由付ける
- ・他者、図鑑とつなぐ
- ・可視化する
- ・言語化する



なるほど！よく気付いたね。

どうしてそう思ったの？

〇〇さんが□□について話していたよ。〇〇さんの考えを聞いてみたらどうかな？

どうしたら分かると思う？

どんな色、形、においだった？

どんなことに気付いた？

メモ・絵・写真

秋を見付けたり、見付けた物を観察したり集めたりしよう。

個別 協働

秋について考えよう

協働

話し合い活動

秋祭りをしよう

協働

個別

見付けた秋で作って遊ぼう

協働

個別

秋を見付けよう

秋は、たからものがいっぱいあるね。寒くなると葉っぱは色が変わるって分かったよ。冬になるとどうなるのかな？

十五夜で、ススキや果物をお供えするよね。秋は、お祭りで、豊作のお祝いやお祈りするんだって。

いろんな色や形の落ち葉を集めて作りたいな。教室に飾ったらかく暖かいよ。

さつまいもが大きかったね。秋は、柿や栗…いろんな実がなる季節だね。だから、神社でお祭りするのかな？

秋になって涼しくなったから色が変わったんだと思うよ。実も色が付いたんだね。

さつまいもに栄養がいったんだと思うよ。だから、葉は元気がないのかも。

イチョウの葉っぱ、緑が黄色になって落ちていたよ。実も黄色くなっているね。

さつまいもの葉の緑色が薄くなったね。つるは元気がなくなったのかな？紫色になったよ。

夏とはどんな違いがあるかな？

単元ガイダンス

秋は、どんな活動ができそうかな？

そうだね！みんなで育てているさつまいも、楽しみだね。

秋はどんな季節かな？秋と聞いて思い付くことを書こう。

個別

秋について考えよう

夏は暑い。木の葉は、緑が濃い。生き物が元気になる。花や木が枯れやすいから水が大事な季節。

落ち葉やどんぐり、校庭にあるかな？秋ならではの物を見付けて遊びたいな。



夏の水鉄砲が楽しかったな！

② 言語能力を引き出し、ねらいに迫る

【引き出す】

この単元では、身近な自然の共通点や相違点、季節の移り変わりや自分たちの生活との関わり等を捉えることができるように、活動から得た気づきを言語化させ、交流活動や対話の中で関連付けていきます。そして、単元の終末では、秋についてこれまでの生活経験の中で獲得してきた概念と、授業をとおして獲得した概念を結び付け、概念の再構成を促していきます。

本時のねらい

見つけた秋の「お気に入り」や「たから物」をもとに、秋の季節の様子や変化を把握し、季節によって生活が変わることに気付くことができる。



これまでの学習から気付いたことをまとめて、秋はどんな季節か考えましょう。

「どんなもの」「どんなこと」を発見した(見つけた)かな。見つけたものや気付いたことをまとめよう。友だちと意見交流をしながら、考えてもいいね。

あきは、どんなさせつだろう? ~はっ見した秋の「お気に入り」「たから物」をまとめてみよう! ~

 「目で見て」はっけん	 「耳できいて」はっけん
あきは、	
きせつ。	
 「においで」はっけん	 「手でさわって」はっけん

どうしてそう考えたの?
【つなぐ(意見と根拠)】

他に(家や地域で)見つけたものはないかな? 【つなぐ(家庭や地域)】

- ・季節によってどんな違いがあると思う?
 - ・春や夏と、秋はどう違うのかな?
 - ・〇〇以外にどんなよさがあるのかな?
 - ・どうして、〇〇するのか?
 - ・〇〇だけじゃダメなのかな?
- 【問い返し(汎用性・本質を問う)の例】

私は、「明るくてきれいな季節」だと考えたよ。【意見】

どうしてそう考えたのですか?

あそこの山を見て! 色が明るくなったでしょ。秋になると周りの景色の色が変わるんだよ。黄色やオレンジ色、赤など、木の葉がいろんな色に変わる秋の景色は、明るくてきれいだよ。だから私は、黄色や赤の葉を教室に飾って、みんなを明るい気持ちにしようと思ったよ。【根拠】

そうだね。教室も、みんなも明るくなるね。

ぼくは、「美味しい物がたくさんある季節」だと思うよ。この前、甘いにおいがする大好物の栗やリンゴをたくさん食べたよ。どれも秋にとれる果物だよ。【意見と根拠】

秋は、「食欲の秋」っていうんだよね。

秋は、たくさん美味しい食べ物がとれるから、「ありがとう」の気持ちをこめてお祭りをするんだよね。5年生もお米がたくさんとれたから収穫祭をやっていたよ。ぼくたちも、さつまいもパーティーをしたよね。【具体】

どうして秋には、こんなにたくさんのよさがあるのかな? 【問い返し】

実ができる秋は、植物にとってのゴールだからじゃないかな。これから冬になると、植物は枯れちゃうよね。でも、また春になって暖かくなると芽が出て葉が出てくる。ぐんぐん成長して、秋にはまた実ができる。これを繰り返しているんじゃないかな。【意見と根拠】

そうだね。秋がきれいなのは、木の葉が落ちる前に色を変えるからだね。だから、寒くなると木は葉を落として枝だけになってしまう。秋は、「冬の準備をする季節」かもしれないね。季節は、つながっているんだね。【意見と根拠】

③ 言語能力を活用した学びを整理し、次の学びにつなげる

【整理する】

生活科では、自分の学びや体験活動を振り返ることで、新たな気づきを記述したり整理したりすることが大切です。また、教師は、見取った児童の学びの姿や気づきを価値付けたり、児童の生活や他教科等の学習活動とつなげたりして、自己の成長に気付けるようにします。さらに、児童の振り返りを次時の課題設定に生かし、見通しをもって探究的に学習に取り組めるようにすることが大切です。



今日の学習を振り返って、あなたが考えたことや分かったことを書きましょう。

秋は、栗やどんぐりなどいろんな実がなる季節です。それに、秋はぶどうや梨、りんごなど美味しい物がたくさんなる季節です。どの植物も、秋になると実を付けて、あとは枯れていきます。秋は植物にとってのゴールって言ってたけど本当かな? 冬はどうしているのかな? 春になるとまた芽が出るのかな?

ぼくは、今まで木をじっくり見ていませんでした。木は、春夏秋と、季節ごとに色を変えていました。今は、葉っぱも落ちて枝だけになっているけれど、寒い冬の準備をしているのだと思いました。冬になっても木の観察を続けたいです。

私は、みんなでやった秋祭りが楽しかったです。神社の秋祭りは、食べ物がとれたことに感謝するお祭りだったことを知りました。みんな、季節のよさを取り入れて楽しく生活していることが分かりました。

【参考文献】

- 小学校（中学校）学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編 文部科学省
- 小学校（中学校）学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語 社会 算数 生活 編 文部科学省
- 中央教育審議会教育課程部会国語ワーキンググループ第3回配付資料
「言語能力の育成のイメージ図」（2025.11 中央教育審議会教育課程部会ワーキンググループ）
- 言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】【中学校版】（平成 23 年）文部科学省

【表紙写真提供】 阿賀町立三川中学校

【Teachers' バックナンバー】

- Teachers'2025 特集 「観」を転換し、「子どもまんなか授業」を前へ
～子どもが自己調整しながら学びを進めるために～
- Teachers'2024 特集 子どもまんなか授業
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～
- Teachers'2023 特集 「深い学び」の実現に向けて単元を構想する
- Teachers'2022 特集 「深い学びに向かう対話」を実現するポイント
- Teachers'2021 特集 「学習と指導と評価の一体化」を実現するポイント
- Teachers'2020 特集 「主体的・対話的で深い学び」を実現するポイント
- Teachers'2019 特集 「見方・考え方」を共通の視点とした授業改善の取組
- Teachers'2018 特集 学習指導要領の趣旨を生かした取組を進める
- Teachers'2017 特集 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める



バックナンバーは左の二次元コードから
御覧いただけます。
*Tea Room からダウンロードできます。

子どもまんなか授業

下越教育事務所



<編集・発行>

下越教育事務所 学校支援第2課

〒957-0053 新発田市中央町 3-7-2

TEL 0254-27-9157

FAX 0254-27-9161

URL https://www.pref.niigata.lg.jp/kyoiku_kaetsu/